

この「広報ひこね」は47,950部作成し、1部当たりの単価は10円(1円未満切り捨て)です。ただし、原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

連載企画 | 発見 彦根の文化財 第10回 |

彦根城の詳細な測量を行っています

城は、戦争によって発達した戦争のための軍事施設です。長い戦乱の時代をへて関ヶ原合戦後に全国的な築城期を迎え、高度に発達した城が各地に造られました。彦根城もその一つです。荘重華麗な天守と、それを取り巻くように築かれた櫓や門、そして堀。いずれも堅牢な石垣によって守りを固めています。

彦根城を縄張り、つまり城本来の軍事施設として見ると、彦根城の優れた機能が理解できます。

まず、本丸にいたる前後には「大堀切」があります。大堀切は、山の尾根を断ち切るように築かれた大きな空堀です。表面は天秤櫓の外に、また裏手は西の丸三重櫓の外に築かれています。現在は両堀切とも橋が架かっていますが、この橋がなければ高い石垣を登らないと本丸方面に侵入できません。



▶天秤櫓外の「大堀切」

また、彦根城には、全国的にも珍しい「登り石垣」が所々に存在します。登り石垣は、秀吉が晩年に行った朝鮮侵略の際、朝鮮各地で日本軍が築いた「倭城」において顕著に見られるもので、高さ1〜2メートルの石垣が、文字どおり山の斜面を登るように築かれています。斜面を移動する敵の動きを阻止する目的で築かれました。国内では洲本城(兵庫県)や松山城(愛媛県)など限られた城にしか見ることができません。彦根城では、かつてこの石垣の上に、さらに瓦堀が乗っていたようです。彦根城は、このような「大堀切」や「登り石垣」が、櫓・門・堀などとも巧妙に連結して、た



◀表門から鐘の丸に伸びる「登り石垣」

いへん発達した縄張りとなっていました。

私たちは、彦根城を訪れても、天守や櫓など個々の建造物に目を奪われ、城本来の縄張りを意識することがあまりありません。

国教育委員会文化財課では、彦根城の縄張りを正確に確認するため、平成20年度から5年計画で彦根城の詳細な測量調査を実施しています。測量は、GPS(衛星測位システム)を活用して精度の高い基準点杭を要所に設置し、縮尺100分の1の等高線



▲GPSを活用した測量風景

測量を行っています。もちろん、建造物やその礎石、石垣、そして大堀切・登り石垣なども残らず図面上に記入しており、この図面を見れば彦根城の縄張りが一目瞭然です。成果がまとまれば、皆さんにも披露したいと考えています。ご期待ください。

皆さんへのお願い

国教育委員会文化財課では、彦根の城下町ゆかりの古写真や古図を探しています。今後のまちづくりの参考資料にしたいと考えていますので、お持ちの人はご連絡ください。

問い合わせ先 国教育委員会文化財課

☎26-50003番、FAX 26-50009番、Eメール: [bunkazai@mx.hikone.ed.jp](mailto:bunkazai@mx.hikone.ed.jp)

ed.jp

今月の納税

固定資産税(第4期)

3月1日(月)までに納めましょう



「広報ひこね」は、環境に配慮し、再生紙を使用しています。また、揮発性有機化合物の発生を抑えた大豆油インキを使用しています。廃棄する場合には古紙回収に出してください。